

はじめに

この本は、5年生で学習する国語の知識・読解の基本を身に付けられるように編集してあります。一週間に2ページずつ問題を解きましょう。

【各章の構成】

言語事項課……各章はじめの一課では、「文のしくみ」と「言語事項」を学びます。「文のしくみ」の問題でつまづいたときは、巻末の「文のしくみマスター」を確認しましょう。

読解問題課……各章の二課以降では、最初の課で学んだ内容をトレーニングしながら、その課の読解問題にも取り組みます。

まとめの問題……その章で学んだ内容を総合的にあつかっています。

小学5年

もくじ

17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	第1章	説明文・論説文	言語事項	文のしくみ(1)／仮名づかい	送り仮名	指示語・接続語	話題・事実と意見・具体例	段落・要旨	まとめの問題	言語事項	物語・小説	文の基本型／漢字の成り立ち・部首	あらすじ・場面・登場人物	心情と言動・表現	主題	まとめの問題	情報(1)	言語事項	文章の型／類義語・対義語	情報を正しく読み取る(1)	体験・感想・考えを書く	根拠をおさえて書く	まとめの問題	第4章	説明文・論説文・物語	言語事項	文のしくみ(2)／いろいろな熟語	話題・事実と意見・主題	段落と段落の関係・要旨	場面と情景	人物像をとらえる	まとめの問題	42	40	38	36	34	32	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	8	6	4	2
33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	第5章	詩・短歌・俳句・古典作品	言語事項	文の役割／慣用的な表現・表現技法	詩を読む	短歌・俳句を読む	古典作品にふれる	まとめの問題	情報(2)	言語事項	段落の役割／考えを深める言葉	情報を正しく読み取る(2)	資料を読んで書く	意見文を書く	まとめの問題	筆者の意見をとらえよう	言語事項	敬語／同訓異字・同音異義語	自然と環境に目を向けて	文化はおもしろい	思考すること・表現すること	まとめの問題	第8章	場面や心情を読み取ろう	言語事項	言葉の種類・識別／難しい言葉	家族・友人とのきずな	日本の昔話	偉人の生き方	まとめの問題	84	82	80	78	76	74	72	70	68	66	64	62	60	58	56	54	52	50	48	46	44			
																	巻末	文のしくみマスター																		84																																	

1 文のしくみ(1) / 仮名づかい・送り仮名

トレーニング

1 次の各文の 線部の主語をア～オの中から記号で答えましょう。

ただし、主語がないものには×で答えましょう。

(1) 子犬を ア 連れた イ 少年が ウ 鼻歌を エ 歌いながら オ 散歩する。

(2) この ア 科学の イ 本は ウ ぼくが エ 愛読する オ 週刊誌だ。

(3) 妹は、ア 母や イ 姉と ウ ひな祭りの エ 準備を オ 始めた。

(4) 山の ア 方から、イ とんびの ウ 鳴く エ 声が オ こだまする。

(5) 夏休みには、ア 息子と イ いっしょに ウ アゲハチョウの エ 自由研究に オ 取り組んだ。

【チェック】 わからない場合はP.84「文のしくみマスターポイント1」を

読もう。

2 次の「」の漢字の送り仮名が正しいものを記号で答えましょう。

(1) 駆でおじさんと「ア 別かれる イ 別れる」。

(2) ひもを固く「ア 結すぶ イ 結ぶ」。

(3) むずかしい実験を「ア 試みる イ 試る」。

(4) 兄から本を「ア 借る イ 借りる」。

(5) 「ア 浅い イ 浅さい」川が流れる。

3 次の言葉の読み方をひらがなで書きましょう。

(1) 往復

(3) 鼻血

(5) 遊園地

(7) 夕方

(9) 栄養

(2) 大通り

(4) 身近

(6) 計画

(8) 築く

(10) 続く

実力アップ

1 次の各文の——線部の主語を答えましょう。ただし、主語がないものには×で答えましょう。

□(1) 高原の空気はとてもおいしい。

□(2) 私はこの学区の小学校の生徒だ。

□(3) どしゃぶりの美しい雨にふられた。

□(4) 小鳥が仲間たちと楽しそうにさえずる。

□(5) ひまわりの大きな花がどうどうとさいた。

□(6) 夜空には無数の星がまたたく。

2 次の各文の——線部を正しい仮名づかいにして、文全体を書き直しましょう。

□(1) ぼくわくグラウンドえ行き、サッカーのパスの練習おした。

□(2) いただいた桃のかんずめを三人の兄弟で一個づつ食べた。

□(3) 命が大切なのは、ゆうまでもない。

3 例にならって、次の□にひらがなを一字ずつ入れて、意味が通るようにしましょう。

例 ① 荷物が重 い。

② 本を重 ね る。

① 清 水。

② 塩で清 る。

① 川が流 る。

② 水を流 。

① 羊が群 る。

② 羊の群 。

4 次の文中には、仮名づかいと送り仮名のまちがっている言葉が1か所ずつあります。それらを直し、文全体を書き直しましょう。
暗い空がぱつと光かり、おうきなかみなりがごろごろと鳴った。